

東北地域の復旧・復興に資する技術シーズ情報

技術シーズ名		蜜蜂放飼による菜種の高収量化と固結化等の改善による蜂蜜の高品質化技術
研究者等	所属	ハニーテックラボラトリー株式会社
	職名・氏名	開発研究所 所長 伊藤新次
	連絡先	NPO法人グリーンテクノバンク 桑原真人 Tel:011-210-4477, E-mail:gtbh@almond.ocn.ne.jp
<p><シーズの内容・特徴・留意点等></p> <p>震災の被害地では、津波で塩害を被った農地や低レベル放射能汚染土壌の利用が喫緊の課題である。すでに多くの課題が取り上げられているが、養蜂を核とした復興計画はない。</p> <p>国産なたね油の人気は高いものの低価格の外国産と競合しており、子実生産だけでは収益性が低い現状にある。</p> <p>自家不和合性作物群落に蜜蜂を放飼することにより、なたね子実収量が大幅に増加する現象が報告されている。このため、震災で栽培不適地となっている圃場になたねを導入し、養蜂と組み合わせにより高収化し採算性を高めることができる。また、これまで国内での生産がほとんどないローヤルゼリー等も併せて生産することにより、収益性を向上できる。さらに、景観形成による観光振興など、総合的な取り組みにより地域の活性化が可能となるなど、多面的な効果が期待できる。</p> <p>(子実の多目的利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> なたね子実から食用油を搾油して利用するが、放射能低汚染圃場で生産された子実はバイオディーゼル燃料(BOD)生産に利用できる。 <p>(なたね蜂蜜の高品質化)</p> <ul style="list-style-type: none"> なたねの蜂蜜は結晶化しやすく、使いにくいため人気がない。確立された高品質化技術シーズの活用により新規蜂蜜商品が開発できる。 <p>(ローヤルゼリーの商品化と雇用効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、中国産はローヤルゼリー生産のための花粉が不足し、小麦粉給与による生産物が増加し、アレルギー等で多くの問題を起こしている。国産ローヤルゼリーは、1キログラムあたり5~6万円と非常に高価であり、人工飼料を使用しない養蜂により、市場における差別化が期待できる。 被災地では雇用の場の確保が大きな社会問題となっているが、ローヤルゼリー採取には人手がかかるため、女子労働力が豊富な被災地では有効な働き先となる。 <p>(プロポリスの販売)</p> <ul style="list-style-type: none"> セイヨウミツバチが集めるフラボノイド等を含むプロポリス生産には、ポプラなどのやなぎ科が向いており、被災地には多く生育しており既存の資源が利用可能である。 <p>(研究要素)</p> <ul style="list-style-type: none"> 刺さない蜂の開発のような研究要素が考えられる。 		
関連特許	蜂蜜の精製方法 特許第 2130501 号	
想定される用途等	固まりやすく使いにくい、なたねや、臭も味も悪く人気がないそば等の低味、低品質蜂蜜を精製し、高品質化する技術	
関連資料等		